

第4回 岡山PPP交流広場

平成28年1月9日(火)
中国銀行本店

ポータルランドに見る小学校の活用と岡山 ～公民連携がもたらす地域経済の活性化～

岡山大学
大学院社会文化科学研究科
経済学部 中村良平

PPPと地方創生

まちづくりに欠如している「地域経済」の本質

まちの外から資金(お金)を獲得する稼ぐ力と、それをまちの中に回す力。それによって、雇用力がアップする。

稼ぐ力は移輸出力、回す力は循環力、雇う力は雇用力

まちの観光戦略と回遊性

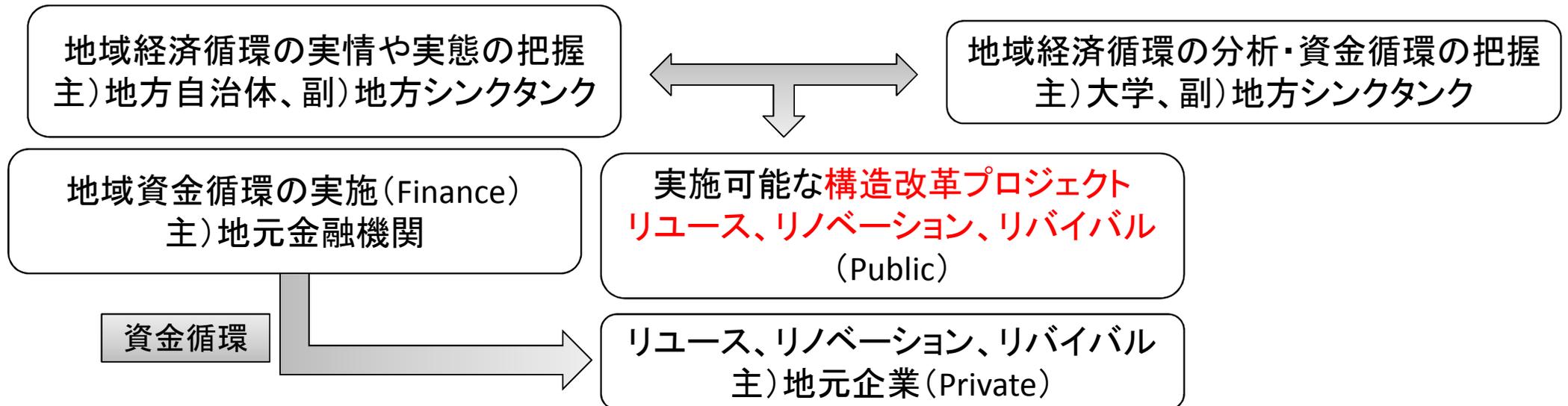
観光客が沢山訪れることは、交通費、宿泊代、飲食代、土産物代などまちの外からマネーを獲得していること。これは誰しもわかる。産業でいうと移出(基盤)部門。そして、まちの中を多く回遊することで、その消費額が高まり、より多くの主体への収入に派生する。非基盤部門の創出につながる。これが経済基盤モデルの波及効果。この規範的なロジックがわかっていない。これを考えずして、まちづくりをすることは、経験と感覚で山道を歩くことに等しい。

PPPと地方創生

まちづくりに欠如している「地域経済」の本質

しかしながら、「地域経済」は出入りが多い。つまり、開放的

稼ぐ力を強めると出て行く方も多くなる、地域外への漏出



Kennedy School, Portland Oregon

- 「Kennedy School(ケネディ・スクール)」 設立は1915年、築100年を迎える文化財。
- 児童数の減少と学校統廃合、老朽化などにより、1975年には閉校を迎えたが、PTAや卒業生の保護運動によって解体の危機を免れ、再生のためのコンペを実施。
- 屋内サッカー場や老人ホームなど複数のプロポーザルから、今日のホテル案が採用された。
- 買い取ったのは、ポートランドの地ビール会社マクメナミンズ。
- マクメナミンズは、教会や農家など古い建物をブリューワリー(醸造所)にリノベーションして成功を収めている会社。
- ポートランドには数多くのブリューワリーがあり、その場所でビールを醸造して販売しています。マクメナミンズの地ビールは、マクメナミンズのバーやレストランでしか飲めない。そこに、ビール好きが集まる。校跡地なので住宅街の中にあることから、地域住民から反対の声が上がった。
- 小学校の景観をそのまま残し、地域のコミュニティセンターとしての役割も担うという条件の下で、廃校がホテルに生まれ変わった。
- そして教室が宿泊する部屋に生まれ変わり、使い込まれた廊下には古い写真や子供達の絵が掲げられ、楽しく懐かしい雰囲気。
- 学校とは、子供の頃の楽しい時間が詰まった思い出の箱。施設のポテンシャルを引き出す。



ホテルのフロント



注) 以下、何枚かの写真はインターネットから採用している

生徒の食堂をレストランに



中庭も屋外レストランに



女子トイレ、ロッカールームは、本格的なブルワリーに！

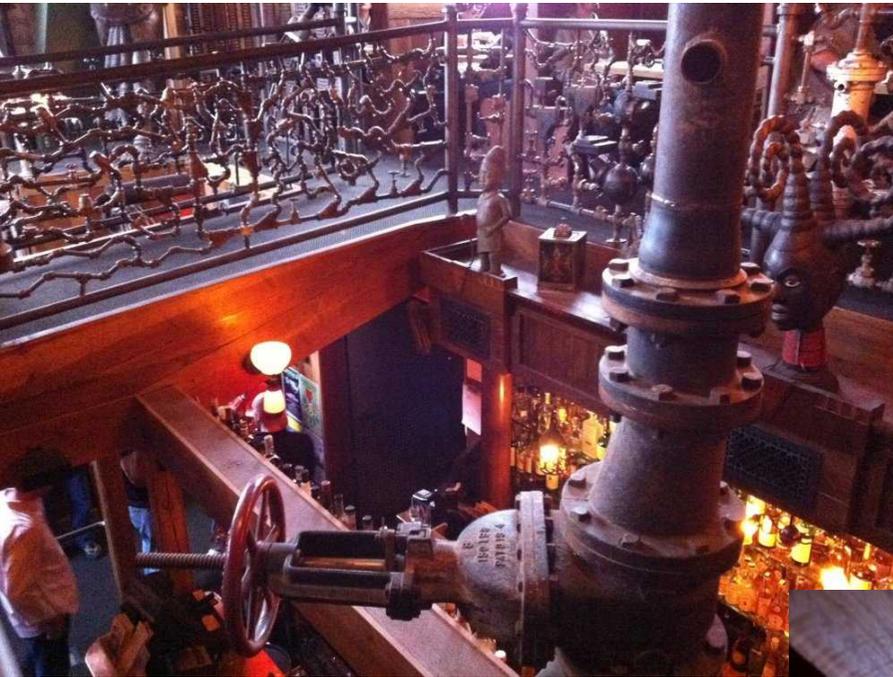
ポートランドはクラフト・ビールのメッカでもあり、このブルワリーでも様々なタイプのビールが醸造されている。タンクには、小さな女の子のイラスト。

中庭に小さなプール

左)中庭に面したレストラン。右)中庭も屋外レストランになる



かつての講堂を利用した映画館、体育館もあり、地域住民にも開放。
校庭は駐車場と市民菜園になっている。
廊下には地元のアーティストの作品が展示されるなど、地域コミュニティの場として、様々な活用されている。



地ビールバー

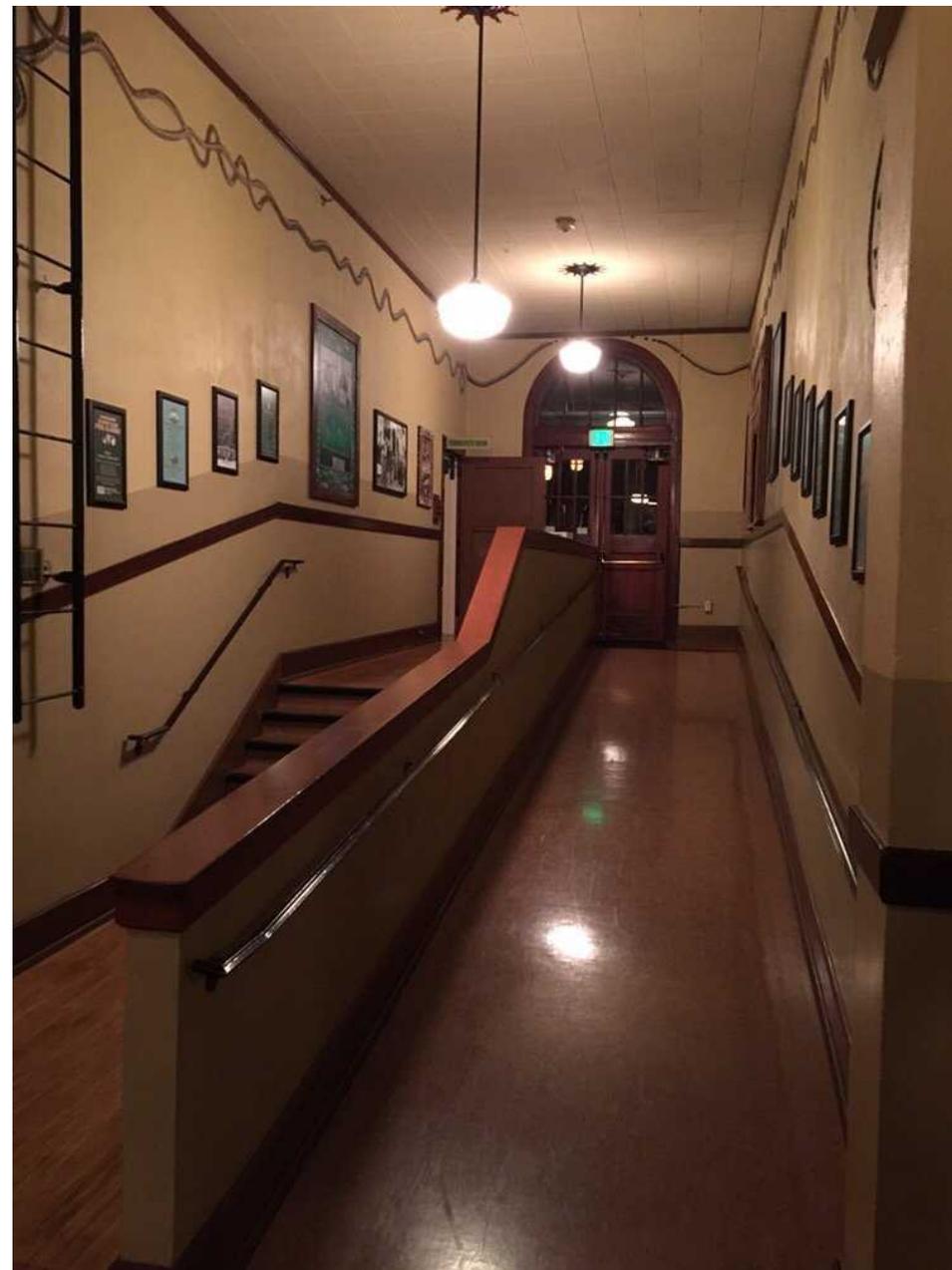




教室を2つに仕切って、トイレやシャワールームを付け加えて、客室にしている。客室内には元教室らしく黒板が設置され、子ども連れの宿泊客が落書きできるようになっている



廊下には絵画や彫刻をたくさん展示





City Painting



Downtown, Powell Bookstore
近くのマリンポリス